

学校教育目標

人間尊重を基本理念に、国際的な視野にたち、平和を愛する社会人の形成を目指して

- 正しい判断力と粘りづよい実践力をもった生徒を育てる
- 健やかな身体と豊かな情操をもった生徒を育てる
- 高い知性とたくましい創造力をもった生徒を育てる

目指す学校像

「みんなで幸せになる」

- ・生徒ができた実感でき、教師にも達成感のある授業を実践する学校。
- ・生徒が自分の力を十分に発揮し、自信をもって活力のある生活を送る学校。
- ・家庭・地域との連携を強化し、生徒・保護者・市民から信頼され、みんなで幸せになる学校。

目指す生徒像

「自己実現」

- ・自分の考えに自信をもち、他を思いやりながら、自己実現できる生徒。
- ・自己実現に向け主体的に学ぶ生徒。
- ・個性を発揮し、多様性を認め、協働する中で深く学び合う生徒。
- ・自他の命や健康の保持を大切にし、自尊感情や豊かな情操を培う生徒。

目指す教師像

「誇りと情熱をもった教育」

- ・生徒の心情に共感し組織で支援する教師
[生徒理解]
- ・生徒の学習意欲や可能性を引き出す教師
[授業力向上]
- ・師弟同行・率先垂範共に学び続ける教師
[指導力向上]

I 教育に臨む基本姿勢

生徒一人一人の「よさ」を認め、「可能性」を引き出す指導を心掛け、生徒の自己有用感を高める。

生徒が主体
教員が主導

1 学習指導 <家庭と連携・協力し、基礎・基本を大切にして確かな学力を育成する>

- ①生徒が、自発的・主体的に成長したり発達したりする過程を重視した活動を行う。
- ②学習のねらいを明確にした計画的で見通しのある指導を行い、達成度を形成的に評価して、生徒が学習の意義や価値を実感できるようにする。
- ③生徒の実態に応じた丁寧で根気強い指導の実施により、基礎的・基本的事項の習得を徹底する。
- ④「自ら意見を述べる」、「自ら考え選択し決定したり、発表や制作したりする」等、議論とプレゼンテーションの場面を設定する。総合的な学習の時間と各教科を連携しながら取り組む。
- ⑤タブレット等の ICT 機器を積極的に活用し、生徒の興味・関心を生かす多様な学習を展開する。
- ⑥仲間と体を動かす楽しさを自覚できる教育活動を展開し、健康の保持や体力向上を目指す。

2 生活指導・進路指導 <自他を大切にする豊かな心と共感的な人間関係を培う>

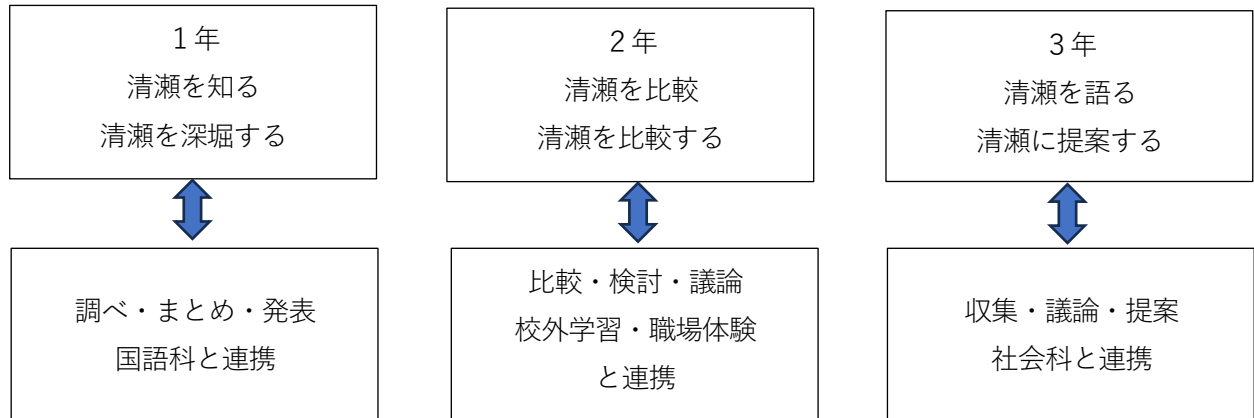
- ①「自己存在感」「自己肯定感」「自己有用感」の醸成。
- ② 体罰ゼロ、肯定的声かけの推進。需要・傾聴・共感、カウンセリングマインドをもった上で生徒指導を行う。その上で、時に優しく時に厳しく。よいものはよい、悪いものは悪いとはっきり伝える。深い愛情と毅然とした指導を行う。
- ③I 組との交流および共同学習を積極的に行うことを通じて、特別支援教育の理解を充実させる。
- ④タブレット等の ICT 機器を積極的に活用し、生徒の興味・関心を生かす多様な学習を展開する。
- ⑤仲間と体を動かす楽しさを自覚できる教育活動を展開し、健康の保持や体力向上を目指す。
- ⑥防災・安全教育の充実をはかり自助、共助の精神を育む。自分の事として捉えさせる。
- ⑦他地区他校との直接交流、間接交流により様々な考えに触れさせる。
- ⑧多様な場面や様々な人との「ふれあい」を基盤としたキャリア発達を支援する教育活動を、3年間を通して計画的に行う。

3 学校運営 <保護者、地域とともに子供を育て、信頼される教育を推進する>

- ①学校経営への参画意識をもち、組織として課題や問題に取り組む。各人は、対外的には学校の代表である。
- ②便り・ホームページで学校の教育活動を家庭や地域に積極的に発信する。
- ③PDCA サイクルでものごとに取り組むため、主任教諭を中心としたグループ討議を展開。グループ討議を軸としワークエンゲージメントの向上を目指す。
- ④地域の教育力を学校教育に生かし、学校・保護者・地域が、三位一体となった教育活動を展開する。
- ⑤教育相談部会を活発化させ、登校支援教室の活動を推進する。
- ⑥構成的グループエンカウンターをきっかけとし、安心して暮らせる学級、つながる仲間意識を醸成させる。
- ⑦防災・安全教育を通して、人と人のつながりを考えさせる。

II 伝える力・表現する力の向上

総合的な学習の時間と各教科の授業を軸に、伝える力や表現する力を醸成し、議論する力を伸ばす。



III 特別活動・その他 <生徒の主体性を発揮させ、社会性や実践力を高め、成就感をもたせる>

授業・係活動・委員会活動・部活動・人間関係など様々な場面において、教員は手を差し伸べてしまう性質をもつ。教育活動のあらゆる場面で生徒に主体を置く指導を実践する。しかし、あくまでも主導は教員であり、基本の伝授は怠らない。また、方向がそれた時には、教員が舵を取り、生徒を成長させる。与えすぎない、教えすぎない、指示しすぎない、導きすぎないの「四ない」を実践していく。

自己決定を促すために、生徒に考えさせる3段階の問いかけの徹底。

困っている時に、教員がすぐに力を貸すのではなく、本人が考えることを習慣化する

- 1) どうしたの？
- 2) どうすべきなの？
- 3) 支援できることは何か？

- ①年間計画に基づき、生徒の主体性や社会性を発揮する学級活動、生徒会活動、学校行事、部活動等を教科学習や総合的な学習の時間と効果的に連携して実践し、折々に適切に評価する。
- ②自発的な活動と当番活動を区別して、生徒の自発的・自治的な活動を重んじ、集団や自己の生活上の課題を解決し成就感や工夫を引き出す。
- ③活動前に生徒に活動の目標を意識させ、活動後には振り返り、成就感を味わわせ、自信を獲得しながら集団や社会の形成者としての資質・能力を育成する。

『みんなで幸せになる』 清瀬中のテーマです。